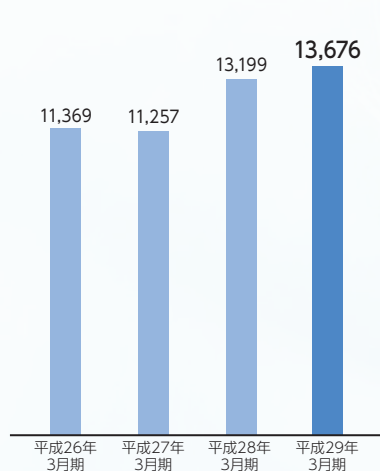


財務ハイライト(連結)

売上高

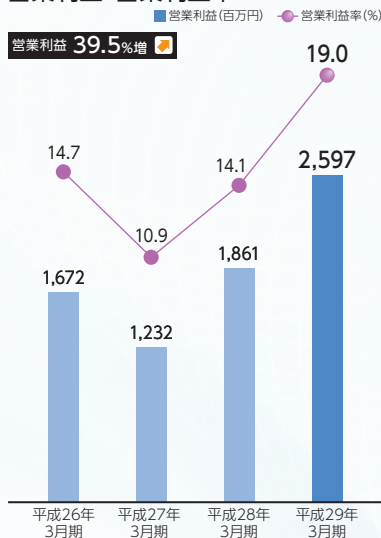
売上高 3.6%増



営業利益/営業利益率

(百万円)

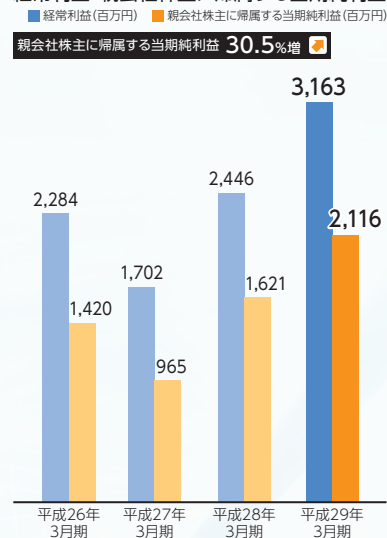
営業利益 39.5%増



経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益

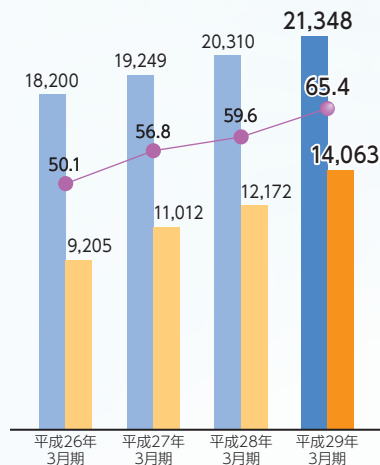
(百万円)

親会社株主に帰属する当期純利益 30.5%増



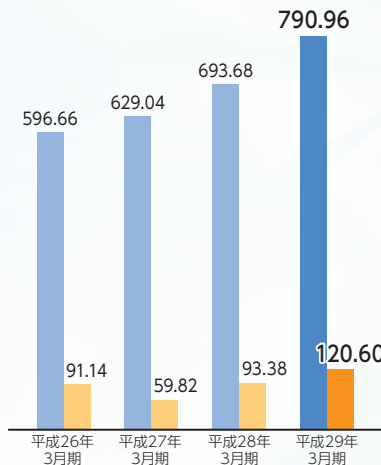
総資産/純資産/自己資本比率

(百万円)



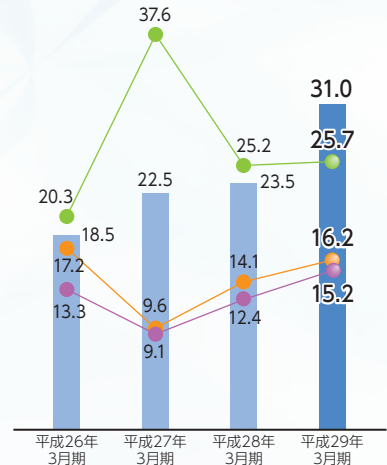
1株当たり純資産/1株当たり当期純利益

(円)



ROA/ROE/配当金/配当性向

(%)

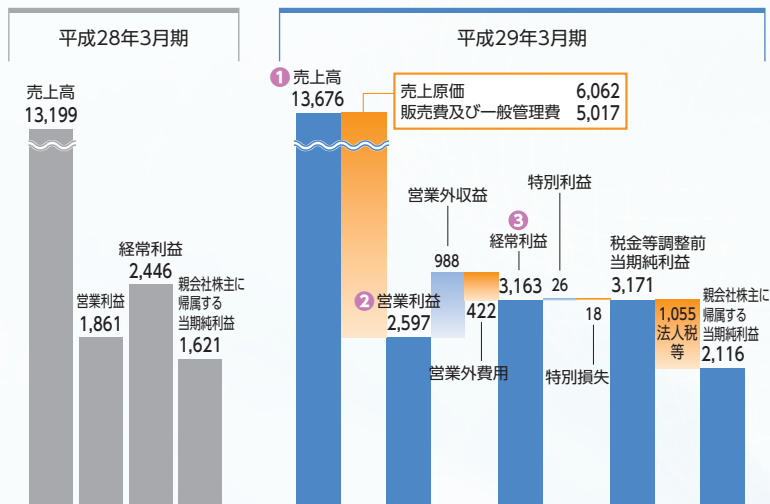


(注) 当社は、平成28年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。上記では平成26年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して表記しております。

連結財務諸表

連結損益計算書のポイント

(単位:百万円)



Point 1 売上高

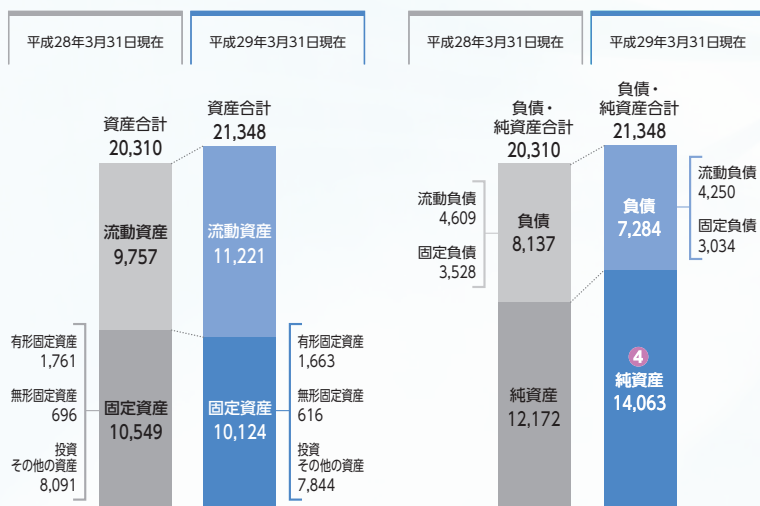
調剤システム事業及びその関連事業につきましては、課金売上の増加に加え、ハードウェアの入替え・サプライ販売が順調に推移しました。医科システム事業及びその関連事業につきましては、MRNの販売が昨年実績を上回り、お客様数の増加に応じて課金売上が増加しました。また連結子会社コスモシステムズが売上高の増加に貢献いたしました。この結果、売上高は前期比で477百万円増加いたしました。

Point 2 営業利益

安定したストックビジネスによる収益の増加に加え、全社での継続的な原価及び経費の圧縮が寄与しました。また、医科セグメントとしては初の黒字化を達成することが出来ました。この結果、営業利益は前期比で736百万円増加いたしました。

連結貸借対照表のポイント

(単位:百万円)



Point 3 経常利益

営業利益の増加に加え、新大阪ブリックビルによる不動産賃貸収入が堅調に推移いたしました。この結果、経常利益は前期比で717百万円増加いたしました。

Point 4 純資産

親会社株主に帰属する当期純利益を原因とする利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末より1,891百万円増加いたしました。